

# テレワークに対応したオフィス空間

住居環境科 稲森 信博

## Office space compatible with telework

Nobuhiro INAMORI

**概要** 近年新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、企業の勤務形態が多様化してきている。その中の一つにテレワークがある。本報では、テレワークに取り組んでいる企業のオフィス空間を提案し、提案した空間に設置するテーブルなどの什器の設計・製作について報告するものである。

### 1. はじめに

2019 年 12 月に中国湖北省の武漢で新型コロナウイルスによる重症肺炎患者が報告されて以降、感染症によるパンデミックが発生した。日本も例外ではなく、2020 年 4 月に緊急事態宣言下の経済活動の停止以降、感染症に合わせた対応を社会全体で取り組んできた。

その取り組みの中の一つにテレワークの推進がある。テレワークとは情報通信技術 (ICT = Information and Communication Technology) を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことであり、会社だけでなく自宅や外出先など離れた場所でも働けるスタイルである<sup>1)</sup>。テレワークを導入している企業の割合は、総務省の統計によると 2022 年で 51.7% であり、半数以上の企業がテレワークを導入している<sup>2)</sup>。

2023 年 5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症は感染症分類が 2 類から 5 類に移行し、元の生活に戻りつつあるが、今後さらに同様の感染症が発生する可能性、地球温暖化対策による交通手段の制限、働き手の減少による働き方の自由化など時代の変化に合わせた働き方の一つとして継続していくことが予想される。本報は、テレワークを導入している企業からの依頼によりオフィス空間の内装の提案及び提案した什器の製作を行った事例である。

### 2. 依頼内容

今回依頼を受けた企業は、島根県松江市にある情報通信業の情報サービス業を行っている企業である。当校の電子情報技術科の修了生も就職しており、企業の方への学校説明会及び在学生に行う企業説明会なども参加して頂いている。その際、施設見学時に過去の学生が総合制作で行った図書室のリノベーションや学生ホールの外にあるに感銘を受け、今回の依頼に至った。

依頼として、現在のオフィスの机やテーブルが借物であるため、椅子やテーブルを製作して欲しいとのことであった。

### 3. 調査・計画

#### 3.1 現地調査

オフィスは、松江市にある 9 階建てのテナントビルの 8 階である。面積は約 65 m<sup>2</sup>、南側に腰窓、北側に入り口 (親子扉) があるフロアの中間に位置するテナントをオフィスとしている。

現地に赴き部屋の大きさ及び高さ、既存の什器、開口部のサイズ等の拾い出しを行った。また、製作した机等は EV を使用して搬入することを想定しているため、机など大きな什器を分解して搬入できるように、EV 内法及び高さ、廊下の幅などの経路も確認した。

### 3.2 聞き取り調査

聞き取り調査では、今回の依頼の経緯、必要な什器の種類及び数並びに要望を主な目的とした。

この調査によって、確認できた内容を以下に示す。

- ・オフィスには、常時職員が3名いること。
- ・職員との打合わせはオフィスで行っており、多いときで10名程度使用することがあるがその際は、隣のテナントを借りて会議を行っている。今後は、テナントを借りずに会議を行いたいため、10名程度が入れる空間と椅子が必要であること。
- ・お客様の訪問があり、打合せスペースが必要なこと。
- ・椅子に長時間座っての作業が多いこと。
- ・動かせられないプリンターなどの機器があること。

### 3.3 レイアウト案検討

現地調査及び聞き取り調査をもとに、レイアウトの検討に入ることにした。レイアウト案は3つ及家具の案が1つである。(図1)

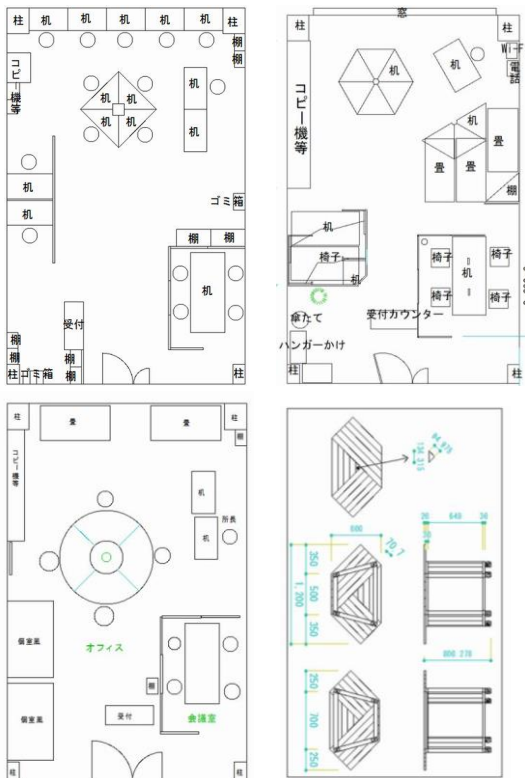


図1 レイアウト案及び家具案

## 4. プレゼンテーション

### 4.1 1回目プレゼンテーション

プレゼンテーションは Web 会議サービスである「ZOOM」を使用して行うこととした。

各レイアウト案を計画した学生から、要望に対してどのように答えた案なのかを説明した。(図2)



図2 プレゼンテーション1回目

レイアウト案の主な講評を下記に示す。

- ・木目が活かされたテーブルが目を引く。
- ・円卓のテーブルが打合せしやすい。
- ・個室になるスペースが設けられていること
- ・畳に座れると落ち着く。
- ・収納できる椅子はカバンが置けるのが良い。
- ・作業姿勢に変化が欲しい。

### 4.2 2回目プレゼンテーション

1回目のプレゼンテーションで使用した2Dデータは図面を見慣れていないと立体的にイメージしづらいため、比較的容易に立体化できる3Dソフト(Sketch up)を使用して、計画案を練った。

2回目もZOOMを用いてweb会議によるプレゼンテーションをした。今回は1回目の講評を踏まえて、2つのレイアウトを提案した。その結果、それぞれの案で好評であった点を取り入れる計画を再考した。(図3)

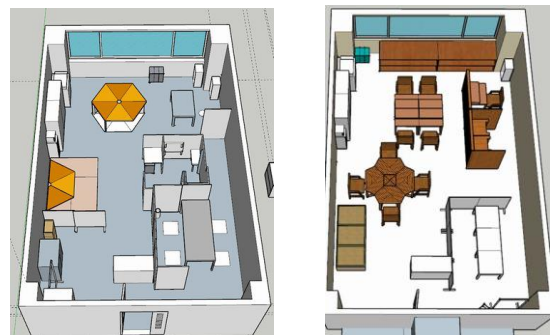


図3 レイアウト案2

### 4.3 予算による打合せ

今回のレイアウトから材料費を見積り提示したが、予定していた額を上回ったため、製作する什器の見直しを行うこととなった。そこで、什器ごとに、木材及び塗料、ビスなどを割り出して、最低限必要なものをだけを選択できるようにした。

(図 4)

製作費用一覧			
総額 (税抜)	604,872	税込→	665,359
小上がり台		(税抜)	
材料	個数	単価	小計
仕上げ			
シナベニヤ	1820×910 7枚	1,475	10,325
下地			
杉 KD材	30×60×2000 17本	415	7,055
キャビネットシツ	2セット	2,334	4,668
ガスファンク	1セット	2,186	2,186
トラス脚キャビネット	1箱	649	649
三分割量	1セット	23,375	23,375
		合計	48,258
		2台分	96,516

図 4 見積・積算

その結果、個数を減らせるものは減らし、腰窓下の棚を無くし、椅子は、今使用している各自のゲーミングチェアなど長時間の作業姿勢に使い慣れている椅子を使用することとなった。(図 5)

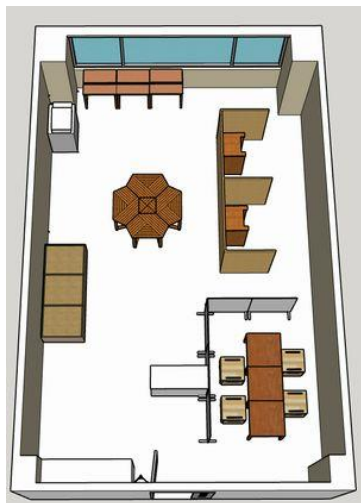


図 5 最終レイアウト

## 5. 加工・組立

### 5.1 加工図作成

今回製作する什器は、『二段机・立ち机・円卓の机・小上がり台・収納できる椅子・パーティション』の6点である。

製作するにあたり、継手の接合方法などを決定し、材料の長さを明確にするため、6点の加工図の作成を行った。

全てに関して、仕上げ表面にビスが現れないようにすることを考えながら、加工図を書くようにした。(図 6)

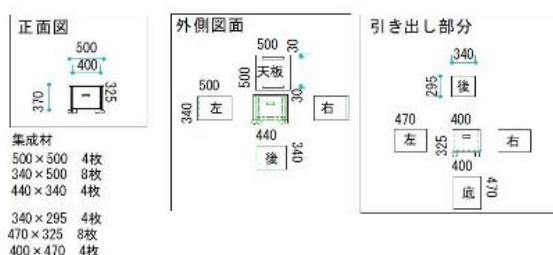


図 6 加工図

### 5.2 加工・組立

製作物の加工・組立について以下に記す。

#### 5.2.1 立ち机

立ち机は、2台製作した。材料は全て集成材を加工することとし、脚はビス止め、天板はダボを用いて接着した。(図 7)

組立後、台にグラつきがあったため、中間にカバン置き台を取り付けることでグラつきを押さることとした。



図 7 立ち机

#### 5.2.2 収納できる椅子

座面部分と収納部分が分かれているタイプであり、製作個数としては8脚となる。着脱可能な背もたれを差し込む穴を2か所開けた。立ち机同様材料は集成材を使用し、ビス穴はダボを用いて隠すこととした。(図 8)



図 8 収納できる椅子

### 5.2.3 小上がり台

小上がり台下は、スプリング式の収納ケースとし、今回のレイアウト変更で置き場のない小物を収納できるように考えた。取り付けは、各部材が細く、ビス打ちが難しいため、下穴を開けてから止めることとした。(図9)



図9 小上がり台

### 5.2.4 2段机

天板を820mm×620mmとし、高さを750mmとした。ノートパソコンを置く台を天板の上に取り付け、少し前に傾け、キーボードが使いやすいようにした。(図10)



図10 2段机

### 5.2.5 円卓の机

作業が分かれてもできるように、六角形の4つのテーブルの組み合わせで円卓となるようにした。またテーブルの木材を無垢板とし、木目を強調したテーブルとした。(図11)



図11 円卓

### 5.2.6 パーティション

立ち机での作業中に視線を遮る個室のブースを

確保できるようにパーティションを2台製作した。板には傾きを付け、立ち机から2段机や小上がり台で作業している人が見えるようにした。(図12)



図12 パーティション

## 6. 設置

オフィスビル内での設置となるため、床に緩衝材を敷き、汚れや音に細心の注意をしながら作業を行った。また、テーブルは、現場で組み立て及びボンド付けを行い、クランプによる締め付けを行った。(図13)



図13 設置及び組立

## 7. 終わりに

時代の動向に合わせ、オフィスでの働き方や生活スタイルが日々変化し続けている。作業空間やインテリアの在り方もその変化に合わせていく必要がある。今回の事例は、テレワークという働き方のオフィス空間に対して、必要に応じて分割できる円卓テーブルの提案などをさせて頂いた。今後様々な働き方に合わせた空間づくりの参考になればと思う。最後に本報告に当たり、製作する機会を与えてくださった株式会社コミクリ 前満様 福田様に感謝を申し上げます。

### 参考文献

1) 一般社団法人 日本テレワーク協会

<https://japan-telework.or.jp/>

2) 総務省 通信利用動向調査

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/>

著者 E-mail Inamori.Nobuhiro@jeed.go.jp